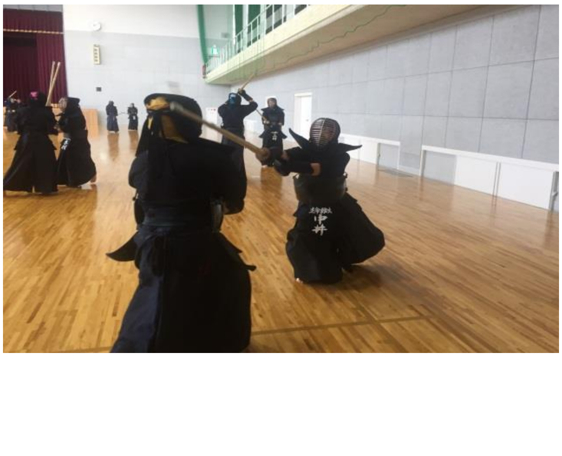
「2017 年度立命館大学体育会剣道部春季合宿を終えて」
～逃げない姿勢で高め合った７日間～

2018 年 3 月 2 日-8 日

執筆者：中井　里美
（滋賀県立堅田高等学校）

2017 年度立命館大学体育会剣道部春季合宿は、私にとって２回目の合宿でした。私は大学に入学してから始めて竹刀を握り、剣道を始めました。体育会剣道部に入ろうと思ったきっかけは、高校時代に剣道部のマネージャーをしており、興味があったからです。練習内容は観ていたので、ある程度は知っていましたが、実際にやってみると全く違いました。入部当初は馴れないことだらけで、同期や先輩をはじめ、指導陣の先生方にもひとつひとつ教えていただきながら素振りや足さばきから練習し始めました。そして６月に面をつけ、全体の稽古にも参加するようになりました。毎日の練習についていくのがやっとで、とにかく体力をつけようと必死でした。

その頃から１年が経とうとするなか、迎えたのが今回の春季合宿でした。合宿前の予備練習でミーティングを開き、キャプテンを中心に部員全員でどんな部活動にしていきたいかについて話し合いました。春季合宿に挑むにあたって私が自分自身の目標として設定したのは**「逃げない」**という目標でした。その理由は大きく分けて２つあります。一つ目は、**夏季合宿で、自分がリタイアしてしまったから**です。夏季合宿の私は稽古についていくのが必死という状態でした。４０度を越える体育館での１時間を越える厳しい追い込み、枯れていく声、そして１回生の仕事など身体的にも精神的にも追い込まれていました。そして熱中症になり、夏季合宿は何度も稽古を抜けていました。私はそんな自分が逃げているようでとても悔しかったです。だから、春季合宿ではとにかく素振りでも正しく大きく振り、追い込みでもまだまだできると信じて、がむしゃらに練習に挑みました。二つ目は、**自分が逃げないことが、誰かの逃げない気持ちに繋がると思ったから**です。自分が全力で稽古をすることで、隣にいる部員にも負けていられないと思わせることができると考えました。「しんどいな」と口に出すのではなく、それを「頑張ろう」に変えることで、誰かを励ますことができると思ったのです。

しかし、今回の目標を自分では達成できたと思っていません。なぜなら、合宿の途中で足を痛めてしまい、最初の４日間と最終日しか稽古に参加できなかったからです。私はまた逃げてしまったように感じました。そして何より悔しかったです。**最終日にその思いを同期に伝えると、「里美はよくついてきているなと思って頑張れた。」と言われ、涙が止まりませんでした。**自分は逃げてしまったけれど、それまで続けた姿勢で誰かを励ますことができ、さらに仲間から励まされることで自分もまだまだ頑張ろうと思うようになりました。ここではまだまだ書ききれないこともたくさんありますが、私は今回学んだことを次の稽古や、夏季合宿に繋げて日々稽古に励みたいと思います。今後とも、指導陣の先生方を含め、OB・OG の先輩方、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。